

色彩・感性・画像 ～ 眼で見て、心で感じる科学

関西大学総合情報学部 浅野晃ゼミ

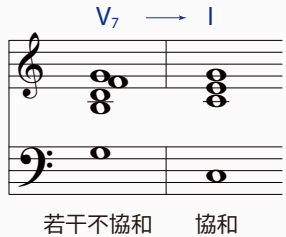


教授 浅野晃 2020年度ゼミ生 4年生16名, 3年生15名

協力研究者 浅野(村木)千恵(北海道教育大), 川澄未来子(名城大), 岡嶋克典(横浜国立大), 田中宏和(広島市立大), 李亮(立命館大), 郭小英(中国・山西大)

日本色彩学会 カラーポッド[京都]’20 2020. 6. 27

■ テーマは「解決」



「解決」は音楽の用語

調和するものの前に
不調和なものを置いて
適切に連結すると,
「調和感」が高まる

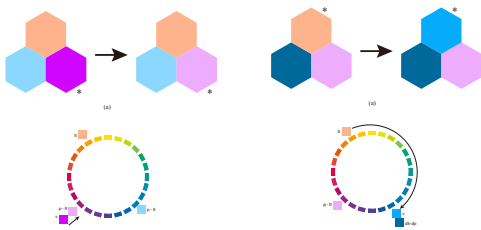
視覚による感性にも、同じ現象があるのでは？

■ 動的な配色と印象



調和する配色と,
不調和な配色から調和する配色に
動的に変化する配色を,
ランダムに呈示

■ 初期の実験では

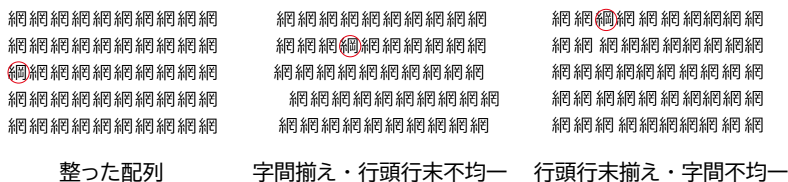


動的配色のほうが
調和感が上がる例

動的配色のほうが
調和感が下がる例

さまざまな実験を
しています
色の配置のしかたや,
個人の色の好みも
影響します。

■ 類似文字の発見

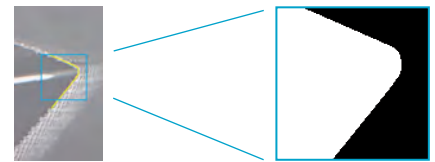


字間不均一は発見しやすさに影響しない → ゆらぎがあっても
行頭行末不均一は影響する 安定した配置

■ 繊維材料のしわ特性の定量化

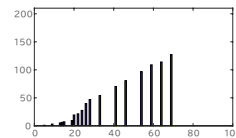
一定の実験条件で繊維材料を折り曲げて開放し,
復元された状態での形状を測定する

画像演算理論のマセマティカル・モルフォロジを利用
形状は自動抽出が可能

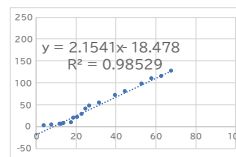


復元された繊維材料

青枠内の形状



サイズ分布 (横軸で表される各サイズの基本図形が、対象図形内で占める面積を縦軸で表す)



サイズ分布に1次関数をフィット
→ 関数のパラメータで、しわ特性が表される

■ 「文理融合的」研究

文理融合学部なので、ゼミ生には人文科学的興味を持っている学生も多いです。

卒業研究のテーマは、学生の興味関心をもとに、
教員との対話を通じて決めています。

■ 色相分類への関心度と分類精度との関連



連続して変化する色相環を協力者に呈示して、「異なる色の境界」に線をいれてもらう
分割した各色に名前をつけてもらう
分割数と色名の複雑さに正の相関があった

調査と実験を組み合わせた卒業研究もやっています

■ 日本における白色の嗜好の調査と、 白色の範囲に含まれる色を調べる実験



山陽・九州新幹線
「白藍色」
青みがかっているが
白の範囲である



東海道・山陽新幹線
こちらは白色

■ ジェンダーと色彩の関連の調査と、 服装や道具の色の嗜好とジェンダーの関連を調べる実験



男女学生に、左のアイテムから、好きな色のものを選んで身につけてもらった
男性のほうが色への規範意識が強く、女性のほうが自由という傾向があった



このQRコードで、浅野のウェブサイト・Facebook/twitterアカウントなどにアクセスできます。

E-mail: a.asano@kansai-u.ac.jp